

「新たなステージ」に対応した防災気象情報と観測・予測技術のあり方(提言の概要)

背景

「新たなステージに対応した防災・減災のあり方」(平成27年1月 国土交通省)

雨の降り方が変化していること等を「新たなステージ」と捉え、危機感をもって防災・減災対策に取り組むことが必要。最悪の事態も想定しつつ、今後の検討の方向性についてとりまとめ。

命を守るため、避難を促す状況情報の提供、避難勧告等の的確な発令のための市町村長への支援が必要であるととも、大規模水害等における広域避難や救助等への備えの充実が必要。

「新たなステージ」に対応した防災気象情報と観測・予測技術のあり方

(平成27年7月29日 交通政策審議会気象分科会提言)

防災気象情報

可能性が高くなくとも、社会に大きな影響を与える現象が発生するおそれを積極的に発表危険度やその切迫度を分かりやすく提供

早急に実現可能な改善策

翌朝までの「警報級の現象になる可能性」の提供
実況情報の迅速化

メッシュ情報の充実・利活用促進

時系列で危険度を色分けした分かりやすい表示

タイムライン支援のため数日先までの「警報級の現象になる可能性」の提供

市町村等への支援や住民への普及啓発活動の継続
分かりやすい防災気象情報となるよう不断の見直し

観測・予測技術

観測・予測技術は防災気象情報の基盤

概ね10年先を見据えた取組

- ・積乱雲：
ひまわり8号の利用技術、次世代気象レーダーの導入や利用技術
- ・集中豪雨：
水蒸気の観測、メソアンサンブル予報技術
- ・台風：
強度予報の延長、進路や雨・高潮等の予測の改善

研究～実用化まで担う気象庁の総合力の発揮

国内外の関係機関との更なる連携の促進

スーパーコンピュータシステム等の業務基盤の維持・機能向上